

研究・調査報告書

報告書番号	担当
459	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Major Habitual Dietary Patterns Are Associated with Acute Myocardial Infarction and Cardiovascular Risk Markers in a Southern European Population. 南ヨーロッパのある集団における主要な習慣的食事パターンは急性心筋梗塞と心血管リスクマーカーに関連する	
執筆者	
Oliveira A, Rodríguez-Artalejo F, Gaio R, Santos AC, Ramos E, Lopes C.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Am Diet Assoc. 2011 Feb;111(2):241-50.	
キーワード	
食生活パターン、急性心筋梗塞、心血管リスクマーカー	
要 旨	
<p>背景： 南ヨーロッパのほとんどの食事パターン分析は、地中海スタイルの食事指標を使用した古典的な食物アプローチ法に頼ってきた。この方法は、現代の母集団の食物の消費スタイルを反映していないと思われる。</p> <p>目的： ポルトガル・ポルトの一般成人集団において現代の食事パターンの急性心筋梗塞や心血管リスクマーカーとの関連性を評価する。</p> <p>デザイン： 集団ベースの症例対照研究が実施された。トレーニングを受けた面接者により情報が集められた。食事は評価済みの 82 項目の食物度数質問票を用いて評価された。</p> <p>参加者・設定： 症例は非致死的な急性心筋梗塞にて入院した患者 820 名であり、対照は病院と同一の地域に居住する急性心筋梗塞の既往のない人 2,196 名であった。</p> <p>統計学的分析： 食事パターンは、相互に排他的なクラスターとして、対照集団における多変量有限混合モデルにより特定された。オッズ比と 95%信頼区間は、主要な交絡因子を調整した無条件のロジスティック回帰から得た。</p> <p>結果： “健康的”食事パターンの女性と比較して“果物と野菜の摂取が少ない”及び“赤身肉とアルコール”（乳製品と野菜の摂取が少ないという特徴もある）パターンの女性は急性心筋梗塞のリスクがより高いと分かった（オッズ比・95%信頼区間はそれぞれ 1.85・1.01～3.39 と 1.91・1.17～3.12）。“赤身肉とアルコール”パターンの女性はまた高い総コレステロール/HDL コレステロール比を有していた。“健康的”食事パターンの男性と比較して“赤身肉とアルコール”パターンの男性は女性同様急性心筋梗塞のリスクはより高い傾向を示した（オッズ比 1.98、95%信頼区間 1.35～2.92）。このパターンの男性では拡張期及び収縮期血圧、CRP、尿酸値がより高かった。</p> <p>結論： 女性での果物と野菜の摂取が少ない食事パターンや男女の赤身肉とアルコールが多く乳製品と野菜が少ない食事摂取パターンは、急性心筋梗塞のリスクや心血管リスクの上昇と関連性がある。これらの結果は、男女とも果物と野菜の摂取の推奨やアルコール飲料の消費に関しての継続的な注意喚起を行うのが重要であるということを強調している。</p>	